

南浜中だより

海鳴

【教育目標】

深く考え 心豊かに
実践する生徒
生徒数 113名 (4/1現在)
平成29年11月17日(金)
新潟市立南浜中学校
HP
<http://minamihama-j.blog-niigata.net/>



入賞おめでとう！

～短歌を詠むことは自分や他者や世界を大切に丁寧に思うこと～

高野公彦様

11/11 魚沼市にて表彰式

宮柵二記念館全国短歌大会に参加して

校長 和泉 哲章

が書かれた文章がとても
気に入りました。

(短歌の)もう一つの
すばらしさは、短歌が
自分や他者の世界の小
さなきりと窓である
こと。歌を詠むことは
自分や他者や世界を大
切に丁寧に思うことに
ほかならないような気
がします。

〔中略〕

小学生から高校生まで
の作品に目を通しながら、
SNSの時代のま
っただ中を生き、「笑」
や「いいね」で瞬間的
に反応することの空し
さを感じる作品もあり
ました。そうであれば
こそ、SNSの瞬間反
応の言葉ではなく古い
短いこの詩型で、しい
んど、ゆっくり、言葉
と自分と世界に向き合
う体験を大切にしてい
らえたらと思います。

まさに、当校が短歌に
取り組む意味を語ってく
ださっています。読み味
わってみてください。

11月11日(土)、魚沼市で行われた宮柵二記念館全国短歌大会・表彰式に参加してきました。今回は、6名の生徒が入選し、うち4名が参加しました。中学生の部は、全国から四七〇首の応募がありました。うれしいことでした。さらに、うれしいことに生徒と一緒に短歌作りをし、応募された地域に住まいの廣橋正子さん(佳作)に入選されました。おめでとうございます。当日は、選者の高野公彦先生、米川千嘉子先生(現魚沼市)の出身で、宮中歌会始の選者等である、日本芸術院会員となつた日本を代表する歌人であり、今回の入選作品集の中で選者の米川先生

宮柵二記念館全国短歌大会入選作品

【秀逸】

父親のただいまの声きこえるとすぐにビールを飲むのどの音	3年	有田さん
秋になり青から朱へ染められて収穫を待つ祖父の木の柿	3年	星野さん
目を閉じる叔母とつないだ左手の重みを感じる十四の秋	3年	高畑さん

【佳作】

夜零時箱の中で生まれた子猫触った手には鮮やかな赤	1年	小熊さん
弟のサドルの位置が上がっていた成長感じ午後吹く風よ	2年	菊地さん
三階の景色も変わる教室で中二の顔する学級びらき	2年	南さん
透きとおるスライスの上オカカのせ新玉葱の香りの五月	地域	廣橋さん

新潟水俣病の原点を胸に刻んで

当校は、人権学習として新潟水俣病の問題について学習しています。11月8日（水）、現地学習会を行いました。この学習会には、新潟水俣病の裁判で弁護団長を長く務められた坂東 克彦弁護士が同行し、各所で生徒に直接説明していただきました。また、県が新潟水俣病の学習に役立つDVDを作成することでBSN新潟放送、阿賀町で新潟日報も同行しました。

まず、泰平橋付近で阿賀野川下流地域に多くの患者や被害者が出たことをお話していただきました。沿岸の人たちにとって、阿賀野川は生活の場であり、そこで捕れる魚は貴重なタンパク源でありました。また、阿賀町では、汚染源となった旧昭和電工鹿瀬工場の排水口や工場の全景、工場に安価な電気の供給源となった鹿瀬ダム・鹿瀬発電所を見ながら、熱く語っていただきました。生徒からは、「困難がある中、どうしてこの問題に取り組んできたのか。」「一番つらかったことは何か。」などの質問が出ました。坂東弁護士は「何ら罪もない人たちの心と体、将来を傷つけ、泣き寝入りさせることは、絶対許せなかった。」と84歳になった今も当時を振り返って、時折厳しさをのぞかせていました。一方、「2か月前に苦勞をかけてきた妻を亡くしたが、これは本当に寂しい。」とも語られました。そして、「こういう若い人たちが二度の同じような過ちを繰り返すことなく、教訓を語りついでくれることが嬉しい。体が弱ると精神も弱る。しっかり体を鍛えて勉強し、がんばってほしい。GOOD LUCK！」と結びました。坂東弁護士の言葉は、未来を担う若者へのエールであり、このたびの現地学習は、新潟水俣病の理解にとどまらず、それに関わってきた人間坂東克彦の生き方に触れた貴重な時間でもありました。最後まで熱く語っていただいた坂東弁護士とご支援いただいた皆様に心から感謝申し上げます。



こんなに美しいところから

2年 南さん

私は、これまで水俣病について学んできましたが、今回初めて阿賀町を訪れました。阿賀町は美しい山々に囲まれ、阿賀野川の水はとても綺麗でした。訪問した時期は紅葉がとても美しかったです。こんな美しいところから有害なメチル水銀が流されたのか。実際に有害物質が流された排水口に行ってみるとバスから見た美しい流水と同じに見えました。私は、水俣病が起こった頃のこの場所のことについて知りません。その部分について、坂東克彦弁護士は私たちに丁寧に話ししていただきました。坂東弁護士は、長い間、水俣病問題に寄り添い、闘ってこられた方です。84歳という高齢となり、杖をつきながら私たちに語っていただきました。50年以上たって、当時の状況を知る人が少なくなっています。しかし、いまだに苦しんでいる人たちがいます。この事件を忘れてはいけないと思います。たとえ将来どんな職業についても環境や命を大切にするという教訓を大事にしていきたいと思いました。